

No.3
1968.9.20

東京教育大学
全学斗争委員会発行

全学斗争に結集し、理ズトライキを実現せよ！

〔理学部斗争〕

全学斗に結集し、勝利のためで共に力強くオジ技一回としてじぬ教育大の全学反艦船、とりわけ日本学生大松に結集し、理ズトライキを実現をなさんとしている全理学部学生反艦船、毎日100名の参加をもって、河の全学化に向けとりわけ本日行なわれる理学部学生大会におけるストライキ実現をめざし、我々は圧倒的な意図と決意を持った。我々は大學当局の沈黙政策をして、我々の移動阻止への強固な意志を武器として構成していかなければならぬ。我々は現在の局面を、文斗争を中心に移動阻止を突破口としてかかげ、E館・本館封鎖をハナ日保田にわたりて死守してさだといつ暴闘の下にあることを把握し、九月における斗争の新たな発展を勝取つていかなければならぬ。全学斗にはげかけられた一切の中傷を断固として我々の大衆的な力によって粉碎し、眞の運動体として全学斗を形成していこうではないか。全学斗は移動阻止をめざしてさだ全学の尊反の結集体なのである。現在文斗争を中心とする全学斗に結集する部隊が、音々との前進を勝取りつてある。名学部の斗争の状況を報ずし、更なる斗争の発展リ理ズトライキを創り出していくたいと考える。

さて彼らの意図は完全に潰されれた。即ち、十六日談田では調査課のデータメタが監査院に提出され、それに、十八日にはMLO和、土地確

保への批判が集中し、調査課計上税回かり、MLO解取、土地確保課、二二年を発表する大きな力となつた。我々はシバ夫を最大限組織化してござります。→

(裏へ)

全学斗争通信

〔理学部斗争〕

理学部筑波斗争委員会に全学斗に結集する所での對し、連帶のあじやつをのぞたいと思ひます。夏休み前のストライキ斗争において、理学部の筑波斗争は一定程度の高揚を見せながらも、坂床の一途たどり、夏休みの一走の「休暇期間」にめぐ理学部の学生は無力感におそられてゐる。しかし横七脚、大きな変化をとげに、理学部のストップをもつて、理学部のスモークをもつて、中止をもつて、夏休みの一つの「休暇期間」にめぐ理学部の学生は無力感におそられてゐる。しかし横七脚、の一つの具体化とも言える本館封鎖対象本部まるもが作られ、我々の手に対する攻撃がなされてしまつてさだに、しかしながらこのような情況の中で、一切の無力感を打ちはらし、理学部の学生が口上がうはければならない密接的信せが存在しているのだ。一部反効教官により、筑波移事は登行にして着々と進められているのだ。理学部の学生は、文部省の学生を中心として手がかれている本館封鎖を断固として支持して、要求實現までストライキもつて手がわなければならぬ。それは全学斗への大きなステップとなり、本館封鎖は我々の手の力の結集なり。湖内的一切の反効教官に向けられる武闘としてさだに強固なものとなるのだ。この手年ににおける我々の属性は決して少ないものでござり。しかし我々は手がわなければならぬ。大湖の一筋の利益のための研究拠点、教育拠点としてはならない。政府文部省学内の反効教官の野望を打ち破り、筑波移事阻止への強固なスクランブルを組み、ストライキをもつて手がわうではないか。

〔農学部斗争〕

十七日のストライキの結果、二二日は夏休みをはやみ、極めて困難な局面にありながらも、我々は農学部におけるストライキ斗争、試験阻止の手を実現すやすく、最大限の活動を展開している。へ調査課及び移動阻止課のデータメタが提出されるがもこれ、十六日にはMLO和、十日には100名、十八日には100名の学反が結集した。そもそも、この調査課による調査は、調査課による学生機関の一環として田舎されにものである。だが、我々はまだ調査課の懇話会が入にまつて、

(裏へ)

（推進派と執行部による身代り主義の争い）

（碎せよ）

しかし、一方推進派による身代り主義の争いが、执行部による身代り主義の争いである。执行部は斗争方針を、責任追求と五者協議会の思想を準備することによって、尋問の本質的解決を回避する傾向が教授・学生両者の中から生れてきている。

（農人ト・試験阻止への斗争への進展）

だがあさくら会、18こん談会への斗争の革命的介入によって農学部における斗争の重要性、執行部による斗争の重要性のうち、「民主的決定反対」斗争を排したMP解散、土地確保撤回の斗争へと進展しつつある。既に、25日学生大会へ向けたスト・試験阻止方針貫徹の為の準備が各系に入り、もろともして、全学の学友の期待に応えりべく、各自準備を整えつつある。

教育学部斗争委員会

（全学ストライキの実現を目指し）

教育学部自治会運動の現状は、执行部のたぐいの指導の貴重といふ過去の風の過去に肥大化されて、うなづき者は低落し学生の自立能力は極度に低下している。特に、この間の教教授会大衆用文、本館封鎖斗争をめぐり、「文斗争委の孤立化」という执行部の自立の一定程度の浸透は、ますます運動の自立化を促進させている。

したがって、ストライキ実現の展望は非常に否定的であり、执行部の無能力は今だに方針をまとまらず、運動が大衆的、戦闘的再生は十分可能な段階にありだ。

全学ストライキ実現の最大の不クリ教育学部の斗争体勢は、今、下から日々と準備されている。今こそ、執行部のたぐいの指導部隊の登場があれば、自立の実現へ向けて立ち上がりぬばならない。

以上のような各学部の報告に基づき、全学斗争委員会は理学部の全ての学友諸君に本日の学生大会で再度ストライキに突入されることを強く訴える。な

どの斗争は質的底線を失え、勝利にむけでの巨水なステップを踏み出さねばならぬ。すでに80日余にわたる交渉等を経て、として本館封鎖ベリケードストライキを宣言したこと、いへども、この理ストの実現が決意的でないものではあるのである。筑波移転阻止に向むけた斗争が再び、6月20調査ヒ計上白紙撤回を勝ち取らざる不敵封鎖に終幕し、文学部の学友が理学部として実現しないか。6年間にわたり理学部が、全学封鎖を実現され、また、筑波研究園都市相模原として実現しないか。6年間にわたり理学部が、全学封鎖を実現され、また、筑波移転を我々は許しまさうのと、調査ヒ計上により、移転は、よいよ最終的衝突に入っている。まさに我々が大学の主体として登場し、我々のねによくて移転を阻止していくことが何より必要と認識されているのだ。諸君が立上ることは、我々の斗争を一月強化するものであるし、大学当局への決定的な打撃となるのだ！理学部の全学友諸君、理ストを実現し共に斗かおう！全学ストを実現しよう！全学斗に結束せよ

筑波研究園都市相模原粉碎！
調査ヒ計上白紙撤回せよ！

MP委員会時解散！ 国大協路線粉碎！

対評議会を採用を要求！
試験阻止！

本館封鎖全学ストを実行せよ！

スケジュール

20日	理学部会員大会
21日	理学部大会
(2) 21日	充電会による理学部活動
21日(火)	全学統一集会(予定)

文斗争委員会

